

出題方針

出題の基本方針は、例年と変わることなく、以下の2点だった。

- ① 高等学校教科書『日本史B』の範囲を逸脱しないこと。
教科書の範囲とは、各出版社の『日本史B』全体を対象とし、その本文はもとより、脚注、口絵・図版・各種の図表及びその解説、史料、年表など、教科書に盛り込まれた内容全体を意味する。
ただし、史料や図表、問題のリード文などについては教科書以外からも出題する。また、教科書への掲載頻度が低い用語はできるだけ避けるが、多面的な歴史理解を求める必要から、やや難しい歴史用語やニュースなどに頻出する時事用語、高校生レベルで身につけていると思われる基本的な語句を使用することもある。しかし、いずれの場合でも、教科書の知識で正答を導き出せるように配慮している。
- ② 当該年度内の問題全体の中で、時代や分野において偏りがないように出題すること。
この基本方針にもとづいて、本年度は、
(102) 古代・対外交渉(45点)/中世・社会経済(45点)/近世～近現代・政治(60点)
(103) 古代～中世・文化(60点)/近世・対外交渉(45点)/近現代・政治(45点)
(104) 古代・政治(45点)/中世・文化(45点)/近世～近現代・社会経済(60点)
(105) 古代・社会経済(45点)/中世・政治(45点)/近世～近現代・文化(60点)
(106) 古代～中世・政治(60点)/近世・文化(45点)/近現代・対外交渉(45点)
(107) 古代～中世・対外交渉(60点)/近世・社会経済(45点)/近現代・文化(45点)
という、時代と分野の枠組みバランスから、出題することとした。

[102]	出題の意図
〔Ⅰ〕	更新世～6世紀における日本列島と大陸との人類移動・対外交渉について、その通時代的理解を問うた。
〔Ⅱ〕	教科書に頻出する8つの史料を通して、中世の社会経済に関する基本的事項と史料の理解度を問うた。
〔Ⅲ〕	薩摩藩を中心とする幕末政治史と近代の地方制度に関して、その多角的な理解を求めた。
[103]	出題の意図
〔Ⅰ〕	南都における仏教寺院の展開をもとに、古代・中世の宗教・美術・建築・政治などの総合的な理解を問うた。
〔Ⅱ〕	近世の対外交渉に関する基本史料から、その基礎的な事項の把握度を確認する出題。
〔Ⅲ〕	「大正デモクラシー」と大正期における社会運動の展開に関して、その基本的な理解を問うた。
[104]	出題の意図
〔Ⅰ〕	飛鳥～奈良時代における6人の人物記述をもとに、古代政治史上の基本的知識の理解度を問うた。
〔Ⅱ〕	鎌倉～室町文化における中国の影響とその日本的展開について、その具体的な把握度を問うた。
〔Ⅲ〕	徳川幕府の社会経済政策・藩政改革、大正・昭和初期の経済に関して、教科書記述の理解を確認した。
[105]	出題の意図
〔Ⅰ〕	平安貴族の一生・衣食住・信仰などについて、その基本的な知識の把握を求めた。
〔Ⅱ〕	応仁の乱以降の政争と戦国大名の領国支配に関する教科書記述をもとに、その基礎的な理解を確認した。
〔Ⅲ〕	国民国家形成期の日本における思想・教育・学問などの展開に関して、その理解を多角的に問うた。
[106]	出題の意図
〔Ⅰ〕	古代・中世の政治に関する5つの史料をもとに、政治・経済・文化などの総合的な理解を求めた。
〔Ⅱ〕	『西洋紀聞』『養生訓』『武道伝来記』を通して、近世文化に関する基礎的な知識の理解度を問う出題。
〔Ⅲ〕	日清戦争～第二次世界大戦後の日中関係について、その基本史料の把握と通時代的理解を問うた。
[107]	出題の意図
〔Ⅰ〕	9～15世紀における日本と東アジアとの対外交渉・国際関係に関して、その多面的な理解を求めた。
〔Ⅱ〕	近世の全国市場経済に関わる交通網・貨幣制度について、教科書が記述する基本事項を問うた。
〔Ⅲ〕	明治初期の「廃仏毀釈」・昭和期の「転向」に関する記述をもとに、文化・社会の理解を多角的に問うた。